

大学の世界展開力強化事業 構想概要 京都大学

【構想の名称】(タイプA-II)

強靱な国づくりを担う国際人育成のための中核拠点の形成 —災害復興の経験を踏まえて—

【構想の概要】

本構想では、東日本大震災からの復興プロセスにおける貴重な経験を生かし、自然災害の多発するASEAN諸国との相互交流の下に、世界展開コンソーシアムを形成する連携大学間で、災害に対する強靱な国づくりを担うリーダー養成を目的とした協働教育プログラムを開発する。単位相互認定及び質の保証を伴うこの教育プログラムを連携大学とともに実施し、他国での受講を推奨することにより、学生の相互交流と留学体験を推進する。さらに、ASEAN連携大学において日本人派遣学生の国際交流や若手研究者が英語教育を行える環境と、日本に受け入れる留学生や若手研究者が、被災地や復興プロセスを視察・学修して得た経験を自国に還元できる環境を整備する。

■ プログラムの目的・養成する人材像

本構想では、日本と同様に今後大規模災害の発生が想定されるASEANの大学と連携して中核拠点(世界展開コンソーシアム)を形成し、東日本大震災からの復興の過程を踏まえながら、強靱な国づくりを担う国際人を育成することを目的とする。

災害に対する強靱な国づくりのために災害復興経験を踏まえた人材育成が急務となっている(写真:岩手県上閉伊郡大槌町)



■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成

○ 質の保証

世界展開コンソーシアムを形成する京都大学及びASEAN連携大学(タイ:チュラロンコン大学・カセサート大学・アジア工科大学、マレーシア:マラヤ大学、インドネシア:バンドン工科大学、ベトナム:ベトナム国家大学)は、いずれもユネスコの高等教育情報ポータルサイ、世界大学ランキングサイト等に掲載されている、それぞれの国でトップレベルの大学であり、所属国における教育省・教育訓練省等から公式に学位授与に関する認可を受けているため、単位の相互認定及び教育の質の確保に関する制度は完備している。

○ 人材育成ニーズに合わせた教育プログラムの提供

本プログラムでは、参画大学間で減災/復旧/復興に関するリーダー養成を目的とした基礎科目・エンジニアリング科目・マネジメント科目からなる英語による教育カリキュラムを構築する。京都大学の学生は、ASEAN連携大学で開講されるエンジニアリング科目履修のために派遣され、ASEAN連携大学の学生は、京都大学で開講されるエンジニアリング科目及びマネジメント科目履修のための受入が行われる。また、本プログラム参加学生のうち、本カリキュラム科目(基礎科目3科目・エンジニアリング科目3科目・マネジメント科目2科目)の単位を所定の成績以上で取得したものには認定書(Certificate)が授与される。

学生の交流は強靱な国づくりを担う国際人育成の第一歩となる(写真:インドネシアバンドン工科大学における学生同士の交流風景)



さらに、京都大学とASEAN連携大学の若手教員が分担して講義するコラボレーション講義科目を行うことで、若手教員の英語教育のFDの機会を設ける。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ 教育内容の評価と可視化

構想の実施や達成状況を評価し、その可視化と改善を図るため、評価委員会を組織し、自己評価・外部評価を実施する。教育プログラムの自己評価は、学生へのアンケート結果に基づいた本学の自己点検・評価システムに組み入れることにより、次年度以降の講義の改善やカリキュラムの改良に役立てる。

○ 情報提供と成果の普及

本学の内部に既に存在する様々な全学の国際交流を行っている国際交流支援機構の諸機能をフルに活用しながら、専用ウェブサイトの開設、連携大学へのパンフレット配布、留学生フェア等を利用した広報による情報提供と成果の普及に努める。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 日本人学生派遣のための環境整備

大学間学生交流協定に基づく交換留学制度や多くの部局で行われている海外インターンシップ・研修実績に基づき、学生への説明会や相談サービスを充実させている。派遣学生は、派遣期間前、期間中、帰国後を含め、アカデミックカレンダーを勘案して策定された学習プログラムに従って学修・研究を実施する。

○ 留学生受入のための環境整備

国際交流推進機構が中心となって各部局と協働で進めており、秋季入学の導入、留学生宿舍の増強、英語に堪能な職員の採用・配置・教育育成、日本語や日本文化教育の強化、生活アドバイザーの増員、日本人学生による支援サークルへの援助など、留学生が学業に専念できるよう積極的かつ強力な支援体制を構築している。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

本プログラムでは、2年度目以降の平成24~27年度に15名の学生の派遣を考えているため、5年間で合計60名の日本人学生の留学を遂行する。受入留学生の数も同数である。

○ 外国人留学生の受入

プログラムで受け入れる外国人留学生を、各年度15名(初年度の受け入れは0名)受け入れることとしている。毎年、1校当たり2~3人の外国人学生を受け入れる。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	0	15	15	15	15
学生の受入	0	15	15	15	15